

◇牧師室から◇

慶応大学の白井厚教授が、退職を記念して「大学とアジア太平洋戦争—戦争史研究と体験の歴史化」という論文集を出版している。大学は学問の自由を確保するところであるが、太平洋戦争時代、大学はどのように対応したかを論述している。教授の先輩、同僚、教え子、そして聴講生からも論文が寄せられ、又慶応大学だけでなく、諸大学、そしてアメリカ、ドイツ、ソ連の大学など、戦争当時の権力との関係性を載せて、興味深かった。

学問の自由を確保すべき大学も、権力の「飴と鞭」で懐柔されていく様は哀れで、悲劇的である。中でも、同志社大学の「神棚事件」や上智大学の「靖国神社事件」など、キリスト教主義大学の苦悩は深かったことがよく分かる。又、朝鮮人学生たちの戦争協力への駆り立ては残酷であった。

もちろん、戦争の愚かさや敗北を見通していた先生もいた。国際法の板倉卓造教授は、「学徒出陣」する学生たちへの最終講義で、「諸君はこれから戦地へ行く、

そこで捕虜の権利について話をすると」言われた。学生たちは驚いて笑ったところ、「笑わないでください」とたしなめ、「生命を奪われない権利」「衣食住の供給を受ける権利」「戦後は速やかに故国に送還される権利」の三つであると教えたという。当時は「生きて虜囚の辱めを受けず」という「戦陣訓」が染み込んでいた。だから、「玉砕」などという狂気に走った。そのような時、捕虜の権利について講義する先生は学生たちに「生きて帰れ」と語り、精一杯の時代への抵抗を示している。又、恐怖のシンボルであった特高を前にして「軍隊は野蛮なところである。死に急いではならない」と平然と送別の言葉を語った気骨ある教授もおられた。

白井教授は、「太平洋戦争と大学」というテーマで公開講座を持ち、学者だけでなく、一般人も加わった共同研究をしてこられた。戦争体験の歴史化・共有化を目指したからである。権力の横暴をチェックできる自由と機能を失っていった過去の検証こそが明日の礎となる。

週 報

1998年6月21日 聖霊降臨節第4主日

巻 19

12号

1998年度 教会主題

「恵みの座に近づこう」

聖句 だから、憐れみを受け、恵みにあずかって、時宜にかなった助けをいただくために、大胆に恵みの座に近づこうではありませんか。

ヘブライ人への手紙 4章16節

- 目標 1. 生活を整えて礼拝、諸集會を守る。
2. 一人が一人を伝道する。

日本キリスト教団

横浜港南台教会

横浜市港南区港南台7丁目8-29

郵便番号 234-0054

電 話 045-833-5323

F A X 045-833-6616

振 替 00290-4-13994

牧 師 秋 吉 隆 雄